

令和 6 (2024)年度宇都宮南高等学校 学校自己評価・学校関係者評価表（各教科）					
本年度の 重点目標		I 安全・安心な魅力ある学校づくり	II 確かな学力の育成	III 進路実現につながるキャリア教育の充実	IV 働き方改革の推進と不祥事防止
		1 自己有用感・自己指導能力を育む指導 ① 学業指導等を通じた日常的な生徒指導の充実 2 文武両道の奨励 ① 部活動における自己ベストの追求を通じた自己理解、自己発見、自己管理の実現及びレジリエンスと自己有用感の向上 ② 国際理解教育の推進と国際交流活動を通じた多様性への理解及び自己理解の深化 ③ 地域理解、地域連携、地域貢献を通じた視野の拡張及び利他性の育成 3 生徒一人ひとりへの支援の充実 ① 教育相談等を含めた個人面談の充実 ② いじめ・不登校生徒の早期発見・早期対応 ③ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材の活用 4 安全・安心な学習環境の提供 ① 交通マナーや規則の遵守 ② 危機管理の徹底（最悪を想定し慎重に素早く誠実に組織で動く） ③ 報告・連絡・相談の徹底及びその後の確認 5 教職員の心と身体の健全化 ① 管理職を含めた周囲のサポートと計画的な年休取得 ② 健康診断や再受診などのよる健康の保持・増進	1 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善 ① 丁寧でわかる授業の実践 ② 家庭学習・自主学習等の習慣化に向けた工夫と改善 ③ 教職員研修の充実 ④ 新学習指導要領の着実な実施	1 生徒一人ひとりの進路意識の向上 ① H R、進路講話等を通じた進路意識の向上 ② 進路選択の拡大 ③ 学びのポートフォリオの活用	1 働き方改革の推進 ① 教職員一人ひとりの意識改革 ② 持続可能な部活動指導の在り方の検討 ③ 業務の進行管理と円滑な引継ぎ ④ I C Tの活用による業務の効率化及び情報の共有化 2 教職員の不祥事防止 ① 風通しの良い職場環境の整備 ② 校内研修の充実
国語科	具体目標	○協働的な学びを通して、他者との相互理解を深めると同時に自尊感情を養う指導を行う。 ○先を見通した学習計画を周知し、確かで安心な学習活動の場を提供する。	○基礎・基本の定着を図るため、家庭学習を習慣化する指導を行う。 ○幅広いジャンルのテキストを主体的に読み、物事を多角的に捉える力を身につけさせる。	○主体的な判断と行動につながる論理的思考力・表現力を身につけさせ、進路実現に柔軟に対応する力を養う。 ○進路に応じた読書活動に主体的に取り組ませ、進路研究や受験に対応する素養を身につけさせる。	○I C Tの活用により、授業内容の効率化・精選を計ると同時に、教材の共有による公平性の保持に努める。 ○自動採点システムの導入により、業務の効率化と正確性の徹底を図る。
	具体方策	1）授業の場でグループワークや発言しあう活動を多くし、他者の意見を尊重しつつ自分の意見を的確に伝えられる環境を作る。 2）シラバスを活用し、定期試験はもちろん、単語テストや週末課題の提出に対し計画的に学習に取り組めるよう配慮する。	1）漢字や単語、速読などのテキストを用いて語彙力を向上させ、知識の定着を図るため小テストを繰り返し実施する。 2）適切な課題を与え、主体的な家庭学習習慣の確立を促す。 3）授業を通して読解のプロセスを身につけさせ、どのようなジャンルの文章でも正確に読み取れるようにさせる。	1）文学作品や評論において、社会や人間の在り方について深く考察し、自分の興味関心や進むべき道についても結びつけていけるよう、話し合いや文章による表現の指導を行う。 2）授業時に図書館を利用し、読書及びその記録を習慣化することで幅広い教養と見識を養わせる。	1）タブレットや映像化教材などを活用し、生徒との対話的指導を行う。 2）「百問繚乱」の活用により、テストの採点の効率化と公平性の保持、及び不正行為の防止に努める。
	段階評価	A	B	B	B
	評価理由	各学年とも、グループでの話し合いや意見交換、まとめたの発表など、他者と協働し合い、他者の意見を尊重しつつ自分の意見も述べるような活動を多く取り入れた授業を、シラバスに従って展開することができた。	各学年で計画的に小テストを実施できた。が、小テストの前日だけ勉強して臨むなど、一過性の学習で済ませる生徒が多く、得た知識の長期的定着に課題が残った。週末課題についても、年間計画に基づいて実施できた。が、課題をこなすだけで満足してしまう生徒、解答を写して出す生徒などが一定数おり、「自ら学習に向かう姿勢の定着」には至らなかった。	教材の終わりごとに、その文章のテーマについての話し合いを行わせたり、筆者の主張に対する自分の意見を書かせたりして学習内容の深化と表現力の醸成に努める指導ができた。「読書の記録」を活用し、読書週間の定着に努めた。	各学年とも、タブレットを用いて調べ学習を行ったり創作物（エッセイや小説など）の共有をしたりと、I C Tを活用した指導を行うことができた。 百問繚乱を国語科の全職員が活用し、効率よく採点を行うことで生徒への迅速なフィードバックに努めることができた。
	学校関係者 段階評価	A B A B A			
	学校関係者 評価理由	「Aさん」主体的な学習姿勢に向け工夫するとともに、GW等を積極的に取り入れ、相互理解の成果を得たため。 「Cさん」ICTの活用を含め、生徒の能力にあわせ工夫した学習指導を行っている。 「Dさん」具体方策に対して概ね実施できている。 「Eさん」社会人になっても「グループセッション」の機会が多いので授業で体験できるのは良いと思います。			
地歴公民科	具体目標	○生徒が学習に前向きに向かう姿勢を高めたり、達成感を得たりすることを意識して指導にあたる。 ○問題を抱えている生徒の発見に努め、その解決に向けて行動する。	○生徒が目的や内容を理解したり、理解をもとにさらに深い学びに進んだりすることのできる授業を実践する。 ○生徒が家庭学習・自主学習等に習慣的に取り組む姿勢を身に付けられるよう支援する。	○進路意識の向上・進路選択の拡大の一助となるよう、積極的な情報発信に努める。 ○生徒が自身の学びを振り返ることができる状態の創出に努める。	○一人に負担が集中しない業務のあり方を追求するとともに、教科に関わる業務・情報を共有できる体制の構築を推進する。 ○教科として不祥事防止を図る。
	具体方策	1）良い言動は積極的に褒めるとともに、振り返り・小テスト・定期テストなど、生徒自身が学習の成果を感じられるようなものにする。 2）授業の様子・課題への取り組み・成績などで気になる生徒への声掛け・面談を実施したり、情報を担任等と共有したりする。	1）本時のねらいの提示、板書の工夫、ICT機器の効果的活用、問の探究など、創意工夫した活動を継続的に行う。 2）予習を前提とする授業展開、授業の振り返り、復習の指示、課題の提出など、創意工夫した活動を継続的に行う。	1）情報の収集、入試問題等の研究・分析を進めその成果を生徒に還元したり、自身の経験・指導経験等に基づく話を紹介したりする。 2）授業で使用した教材（プリント）やテスト等のファイリングを促したり、それを振り返る機会を与えたりする。	1）業務分担を明確にし、また従来実施の校務用データや回覧による業務・情報の共有を維持するとともに反省点等を活かした改善も図る。 2）教科全体だけでなく、同学年・同室・同科目の担当者等様々なレベルで不祥事防止を働きかけ合う。
	段階評価	B	B	B	B
	評価理由	褒めることなど十分でなかったところもあるが、振り返り・小テストなど生徒自身が学習の成果を感じられるような取り組みは概ねできた。科目により面談・声掛けが難しいものもあったが、多くの教員が生徒の問題発見・解決に向けて行動できた。	方策の一つ一つについては意見が割れるが、各自生徒の理解を深めるための活動を取り入れた授業を実践できた。同じく意見は割れるが、予習・復習・課題などへの取り組みせ方については努力を要するという意見が多めであった。	演習の時間がとれず研究・分析成果を生徒に還元できなかったという意見がある一方、自身の経験・指導経験等に基づく話を紹介しているという意見もあった。生徒が自身の学びを振り返る状態の創出には概ね努められた（が、ファイリングは徹底しないところもあった）。	情報の共有に十分でないところがないではないが、細分化・明確化された業務分担に基づき、全員で教科に関する業務を回すことができています。様々な機会で不祥事防止を話題とし、特に問題のない教科運営ができています。
	学校関係者 段階評価	B B A B A			
	学校関係者 評価理由	「Aさん」活動を取り入れた授業を積極的に展開するなど、深い学びに向け精力的に取り組んだため。 「Cさん」生徒理解に努めようとする努力を感じる。安定した指導体制が整っている。 「Dさん」具体方策に対して概ね実施できている。 「Eさん」振り返りや小テストで生徒自身が学習の成果と体感できるのは良いと思います。			
数学科	具体目標	○授業時の主体的な活動を通して、学ぶことに興味や関心をもたせ、粘り強く取り組む姿勢を育てる。	○身の回りの事象を数学的に解釈し、表現・処理できる能力の伸長を図る。	○数学のよさを認識し、積極的に数学を活用しようとする態度を養い、社会の問題解決に取り組む姿勢を育む。	○教科担当者間での情報共有を図る。 ○ICTを活用し業務の効率を図り、よりよい教科指導のための時間を作る。
	具体方策	1）対話やグループ活動を通して、学ぶことに興味や関心をもたせ、粘り強く取り組む姿勢を育てる。 2）様々な解法を探究する中で、考え方の多様性を育む。	1）研究授業の実施および研究協議の充実やICT活用法の共有により、授業力の向上を図る。 2）生徒の実態に即した課題の提示やテストを実施し、骨太な学力を育成する。 3）新学習指導要領に即した指導と評価の一体化を図る。	1）数学が実生活や社会でどのように活用されているかを伝える。 2）様々な学問との関連を伝えることで、上級学校での学びに興味をもたせ、進路の視野を広げる。	1）授業進度や指導法・教材の工夫などの情報を共有・蓄積し、学年を超えた指導の充実を図る。 2）百問繚乱を活用し、試験の採点を効率化することで、誤答分析等担当者間で共有・指導に生かす。
	段階評価	B	B	B	A
	評価理由	生徒との対話的の展開や、生徒に様々な解法を考えさせて模範解答を作成させるなどの活動ができた。	研究授業を実施することができ、ICTの活用方法の共有や議論ができた。また、ある程度実態に応じた評価ができ、その後の指導に役立てることができた。	統計の分野で、実生活にどう生かされているのかなどを伝えながら授業をすることができた。	百問繚乱を活用し、正答率から生徒の苦手とする問題をピックアップし、演習や解説に生かすことができた。
	学校関係者 段階評価	A B B B A			
	学校関係者 評価理由	「Aさん」研修授業の実施やICT活用などにより、学習や指導、分析と多角的な成果につなげることができたため。 「Cさん」ICTの活用により採点を効率化し生徒にフィードバックしている。 「Dさん」具体方策に対して概ね実施できている。 「Eさん」百問繚乱を用いて生徒の苦手とする問題をピックアップできるのは非常に良い方法だと思います。			
理科	具体目標	○実験・実習における安全管理を徹底し、生徒への周知と職員間の連携に努める。	○授業や探究の過程をとおして、科学的思考力を育成するとともに、自発的な発言・行動ができるように促す。	○生徒個々の能力や進路に応じた学習方法を確立させる。	
	具体方策	1）実験室等のこまめな整理整頓を心掛ける。 2）生徒自身の安全に対する意識を高めさせるため、「実験室の使い方」や「実験をするときの注意」についてガイダンスを行う。 3）有事の際に早急に適切な対応ができるよう、日頃から教科内の連携を図る。	1）授業中の発問を工夫することにより、常に思考する姿勢を生徒に身につけさせる。 2）理解度や到達度に応じた小テストなどをこまめに実施し、基礎力の確実な定着を目指す。 3）新学習指導要領に即した指導と評価の一体化を図る。	1）実験をとおして、授業で学んだ知識を深化させるとともに、社会や身の回りの現象との関連に気づけるよう指導する。 2）生徒の進路希望を把握し、授業や課外で生徒に適切な指導をする。	
	段階評価	A	B	B	
	評価理由	化学の授業ではガイダンスを行って生徒の安全意識を高めることができた。理科全体では、今年度大きな事故や破損はなかった。化学での取り組みを参考に、次年度は物理や生物でも安全マニュアルを作成したい。	こまめな小テストを実施している授業もあったが、単元によって小テストを実施できたりできなかったりする授業が多かった。短い時間で効果の高い小テストを計画的に行い、基礎の定着を図りたい。	定期的に進路希望を調査し、授業や課外での指導工夫に生かしている授業が多い。単元末に社会や身の回りの現象との関連に気づけるような取組をしている授業も一部あるが、今後も継続して意識していきたい。	
	学校関係者 段階評価	A B B B A			
	学校関係者 評価理由	「Aさん」思考力や主体性育成、安全意識の形成に精力的に取り組む、学習効果発現や安全な授業の実現がなされたため。 「Cさん」進路希望調査を生かした指導の工夫を行っている。 「Dさん」具体方策に対して概ね実施できている。 「Eさん」社会や身の回りの現象との関連に取組をしている授業は生徒にとって興味深いもので良いと思います。			

令和 6 (2024)年度宇都宮南高等学校

学校自己評価・学校関係者評価表（各教科）

		I 安全・安心な魅力ある学校づくり	II 確かな学力の育成	III 進路実現につながるキャリア教育の充実	IV 働き方改革の推進と不祥事防止
保健体育科	具体目標	○自主的な授業への取組により、生涯にわたって豊かなスポーツライフが継続できる実践力が身に付く指導に努める。 ○全ての指導において、礼法指導等を通じた道德教育を行い、状況に応じて主体的に考え実践する態度を養う。	○体育や保健での積極的なICTの活用 ○3観点に基づいた授業内容の研究	○自主的な授業への取組により、生涯にわたって豊かなスポーツライフが継続できる実践力が身に付く指導に努める。 ○教科横断の指導で体力・技術の向上及び社会的態度を育成する。	○科内のICT活用術の共有 ○事前・発生時・事後の危機管理について科内で共通理解をはかり不祥事防止に努める
	具体方策	1) 体育委員や種目リーダーを中心に個人や集団の課題解決ができる生徒主体の授業展開を促す。 2) 教室の出入りや先生方への言葉遣いについての礼法指導を徹底する。	1) 習得した知識や既有的な知識を使い、動きと場を変容させたり、理想の動きと自己の実態を比較したりして立てた計画を実行させる。 2) 計画して実行した運動内容を評価したり、改善策を考えたりすることを通して、自己の運動を振り返らせる。	1) 授業を通して成功体験ができるよう継続的な支援を行う。 2) 保健や体育理論で健康と運動の重要性を理解させ、体育で実践させながら生涯スポーツの理解をより深めさせる。	1) 研修等で知識を習得し、科内で共有しながら授業内容の研究を進める。 2) 過去に発生した事例の発生原因を分析・検討し問題の早期発見に努め、事前に解決するよう取り組む。
	段階評価	B	B	B	B
	評価理由	1) 保健や体育理論の内容を関連付けさせ、体育委員や種目リーダーを中心に課題解決に向けよく取り組んでいた。 2) 入室や退室の挨拶や先生方への言葉遣いはおおむね良好であった。	1) 各場面において作戦を立てたり、そのための課題解決に向けての取り組みを行わせることができた。 2) 振り返りを行うことで自己やチームの課題を確認することができた。	1) 班行動やグループ学習をとおして、主体的に取り組ませることができた。 2) スポーツライフや生涯スポーツについての重要性について実技や講義を通して理解を深めることができた。	1) 研究授業をとおして科内で研究協議を行い様々な意見を共有することができた。 2) 保健の時間を活用し危機管理の重要性についての理解を深めた。
	学校関係者段階評価	B B A B A			
	学校関係者評価理由	[Aさん] PDSプロセスなどのねらいを持った学習を精力的に展開することができたため。 [Cさん] 生徒による主体的な活動を意識した指導を行い、研究授業等を通して充実を図っている。 [Dさん] 具体方策に対して概ね実施できている。 [Eさん] スポーツライフや生涯スポーツについての重要性について理解を深めることは今後の生活において重要だと思います。			
芸術科	具体目標	○芸術文化について理解を深め、望ましい人格の完成を目指す。 ○主体的・能動的な表現活動を通して、自分自身の価値を見出すとともに、他者を思いやる気持ち、道具等を大切に扱う気持ちを育てる。	○思いや意図を持って作品の制作や演奏を行うことができるようになる。 ○作者や発表者の思いや意図を感じ取り、自らの表現活動への工夫へとつなげることができるようにする。	○表現活動が生活に彩りを加える活動となるよう、主体的・能動的に活動できるように促す。 ○興味関心を持って積極的に授業に取り組みながら、芸術を愛好する態度を養い、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。	○教科間での情報共有 ○使用教材の精選
	具体方策	1) 諸活動を通じて基礎的知識・技能を習得し、表現力・想像力を育成する。 2) 表現活動を通して自身の有用性を感じ取らせるとともに、周囲への気遣いの心も育てていく。	1) なぜそう表現したいのか、どうすればそう表現できるのかを常に自問自答させる。 2) 鑑賞活動を自分の表現活動に活かすことができるよう、主体的に取り組ませる。	1) 自ら考えて表現をする力を養い、将来の趣味や興味・関心ごととして芸術を大切にしていける心育てる。	1)音美術教科間で各クラスの生徒の様子や雰囲気等の情報を共有し、問題の早期発見・早期解決に取り組む。 2)使用教材を衛生面からも工夫をし、安全を確保して学習に取り組ませる。
	段階評価	A	B	A	B
	評価理由	1) 諸活動を通じて、さまざまな知識・技能をかなり習得し、表現する中で人格形成の一助になったように見受けられる。 2) 主体的な表現を心がけることや、協働的な学習活動を通して、自身の有用性を感じることや他者との同調性や共感力を伸長させることができた。	1) 思いや意図を持って創造するためには裏打ちされた深い知識や技能が必要であり、その部分はさらに踏み込んで身につけていく必要があると感じる。 2) 鑑賞活動を、受動的ではなく能動的に取り組ませることにより、自分自身の表現力を身につけさせるきっかけとさせることができた。	1) 生徒たちはとても興味・関心を持ちながら活動に取り組んでいた。学習した内容から自分が興味関心を感じたことを、将来の趣味や興味・関心として繋げていくための一助とすることができたのではないか。	1) 生徒情報共有に関しては、必要に応じて連絡を取り合った。さらに密に連絡を取り合っていた。 2) 教材の衛生面、安全面については、十分に配慮して学習活動に取り組ませることができた。
	学校関係者段階評価	A A A A A			
	学校関係者評価理由	[Aさん] 深い知識や技能の習得、能動的活動に向け、精力的に取り組むとともに、協働、共感、関心等の効果の発現などの成果を得たため。 [Cさん] 生徒の興味・関心を大切にした指導を心がけており、能動的に取り組ませている。 [Dさん] 具体方策に対して、生徒の同調性や共感性を伸ばす事ができたため。 [Eさん] 生徒たちはとても興味・関心を持ちながら活動に取り組んでいたようですので楽しい授業だったかと思います。			
英語科	具体目標	○授業を通して互いに学び合い、高め合う集団作りの育成 ○発言しやすい授業の環境作り ○スローラーナーに対する支援	○基礎学力の充実を図るために、主体的に学ぶ姿勢を養成する。 ○言語活動を充実させ、自ら学び、考え、判断する力の育成を図る。	○様々な分野の内容を英語で触れることで、視野を広げ、キャリア指導に繋げる。 ○英語の知識を深め表現力を高めるとともに、積極的にコミュニケーションを図る態度を育成する。	○教科内研究授業を行い、教員の質の向上を目指す。 ○タブレット端末を活用した授業の実践。
	具体方策	1) 生徒の実態把握に努め、教科内で情報共有を図ることで学習環境の改善を図る。 2) 学習相談をして、到達状況に応じてアドバイスをし、生徒が自信を持って学習に取り組めるように促す。	1) 予習・復習の徹底を図る。 2) 真摯な態度で授業に取り組ませる。 3) 小テスト等により継続的学習を促す。 4) 宿題や課題の内容と授業をリンクさせる。	1) 英語スピーチコンテストなどの各種大会への参加を促す。 2) 授業第一主義のもと、日頃の積み重ねの先に進路実現があることを意識させる。 3) 読書や新聞、インターネット等、様々な媒体を使い教養を	1) 定期的な教科打ち合わせをにおいて常に情報交換を行ない、直面している問題を共有する。 2) 課題の出し方を工夫し、確認作業の効率化を図る。
	段階評価	B	B	B	B
	評価理由	・各学年の総合的な探究の時間において、模試の結果を受け学習アドバイスに力を入れることができた。 ・ペアワーク、グループワークを行なう機械を設け、英語への意識を高め合う機会とした。 ・夏休みや放課後などに、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの指導を個別にすることができた。	・定期テストの結果や得点が伸び悩んだ分野の課題を配信することで、テスト後の復習の機会とし、理解度に応じた動画も配信されることでこのフォローを図った。 ・小テストの取り組みが学年によってばらつきがある。実施方法を含め改善が必要である。 ・小テスト→追試→課題と学習の支援をした。 ・課題によって継続的な学習は促せたが、学習の総量はまだまだ足りていない。	・スピーチコンテスト出場者がいなかった。 ・パフォーマンステストの実施でコミュニケーション力の向上を促した。 ・英語検定の受検者は例年並みあった。日々の授業がさまざまな可能性に繋がるよう、今後も意識付けする必要がある。	・オンライン学習サービスの導入により、家庭学習の充実に繋がった。 ・週1回、リスニングの指導でTeamsに音源をアップし、生徒はイヤホン等を使いオーバーラッピングを練習した。 ・タブレット使用時の様々なトラブルが起こるため、授業で頻繁に使用することが困難だった。
	学校関係者段階評価	B B B B A			
	学校関係者評価理由	[Aさん] 主体性な学びに向け、工夫した復習機会の提供等、学習プロセスに応じた支援に精力的に取り組んだため。 [Cさん] 個別指導等の様々な方策により、指導の充実を図ろうとしている。 [Dさん] 具体方策に対して概ね実施できている。 [Eさん] 夏休みや放課後などに、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの指導の実施ありがとうございます。			
家庭科	具体目標	○安全に実験や実習に取り組むことのできる環境づくりを目指す。	○自らの生活や社会生活に課題を見出し、解決策を考え、実践する態度を養う。	○生活設計をとおして将来の職業観を養う。	○学習効果を上げるためICT機器を活用する ○効果的な教材の精選
	具体方策	1) 調理室、被服室の安全、衛生管理を徹底する。 2) 実験実習に必要な機器等の充実を図る。	1) 各分野を総合的、体系的に捉えることで家庭生活や社会生活に関する問題を提起し、自ら考える力を身につけさせる。 2) 体験活動を取り入れ、実生活に応用できる力を身につけさせる。	1) 人の一生を見通し、その中で予測される出来事とそこで獲得すべき資質について考えさせる。 2) 保育園実習等を通して、保育を職業的視点から捉えさせる。	1) WEB対応の副教材を有効利用する。 2) 特に金融教育や消費の分野では、公的機関から推奨されているHP等を活用する。
	段階評価	A	B	B	B
	評価理由	実習室関係の環境の整備を徹底することができた。特に調理室は生徒に使用させることができる状態でなかったが、整理整頓清掃を年度初めより行い、1学期中には調理実習を行うことができた。	各単元を進めていく中で、別の単元とのかかわりについて気づかせるような問いかけを入れた。また、課題解決学習のプロセスを理解していない生徒が多いため、課題を発見させる内容を多く取り入れたところ、一部の生徒は高い興味関心持って取り組んだ。	ライフステージやライフプランに応じて考え、そのためには多くの知識が必要であることを生徒は理解できていると感じる。 保育実習を通して、参加した生徒たちは保育士という職業についても理解を深めることができたと感じている。	WEB教材についてはかなり利用し、有効だと感じる面が多かった。ただし、教室で生徒達に使用させるには通信環境の面で問題が多く、利用方法に課題が残ると感じている。
	学校関係者段階評価	A B A B A			
	学校関係者評価理由	[Aさん] 課題解決思考力の育成に向け、積極的に取り組むとともに、計画的な取り組みにより、学習環境整備にも成果を得たため。 [Cさん] 環境整備も含め、充実した指導体制が整っていると感じる。 [Dさん] 具体方策に対して概ね実施できている。 [Eさん] ライフステージやライフプランに応じて多くの知識が必要であることを知るのは生徒にとって重要だと思います。			

令和 6 (2024)年度宇都宮南高等学校 学校自己評価・学校関係者評価表（各教科）

		I 安全・安心な魅力ある学校づくり	II 確かな学力の育成	III 進路実現につながるキャリア教育の充実	IV 働き方改革の推進と不祥事防止
情報科	具体目標	○主体的な活動を通して自己有用感、自己指導能力の育成に努める。 ○他者と認め合い、自他を尊重する姿勢を育む。	○主体的に問題解決に取り組むことで、メディアリテラシーを育む。 ○新学習指導要領に即した指導と評価の一体化を図る。	○情報活用能力を育成する。	○教科担当者間での情報の共有を図る。 ○個人情報保護の徹底を図る。
	具体方策	1) 学習課題を提示し、どのように解決するか自ら手順を考え、実行させるようにする。 2) 自分でプログラムを作成し、さらに他者と教えあうことで他者を尊重する姿勢を育む。	1) Teamsを活用した課題配信を実施し、生徒の到達度に即した指導で骨太な学力を育成する。 2) 理論の学習と実習のそれぞれの場面に応じた規準を検討し、評価する。	1) 伝えたい情報をわかりやすく表現する知識と技能を習得し、さらに発信ができるようになることを目指す。	1) 情報を共有し、風通しの良く、生徒の事を第一に考えた仕事ができるようにする。 2) TeamsやFormsで生徒の課題や回答を他の生徒が閲覧できる状態にしないよう十分留意する。
	段階評価	B	B	B	B
	評価理由	解決策を自ら考え、実行させるような主体的な活動ができた。また、他者と教えあう活動も取り入れることができた。	理論の学習と実習のそれぞれの場面に応じた規準で評価を行った。より生徒の実態に即した規準になるように今後も検討していく。	パワーポイントの授業などを通して、伝えたい情報をわかりやすく表現する知識・技能を身につけさせた。さらに発信の手法についても考えることができた。	個人情報の取り扱いについて十分に注意して授業を行った。
	学校関係者段階評価	B B B B A			
	学校関係者評価理由	[Aさん] 主体的な問題解決力育成にあたり、客観的評価を取り入れるなど工夫して取り組んだため。 [Cさん] 情報リテラシーを中心に育んでいる。また、生徒の主体的な活動を心がけている。 [Dさん] 具体方策に対して概ね実施できている。 [Eさん] 学生の間に伝えたいことを表現する知識、技能などプレゼンテーションスキルを取得することは重要だとも思います。			

1. 段階評価：学校関係者による段階評価も含め、A・B・C・Dの4段階評価
2. 評価基準：【A・・・十分満足できる B・・・概ね満足できる C・・・努力を要する D・・・一層努力を要する】
3. 評価理由は、目標達成に向けた取組の状況や生徒の変容の状況などを視点として記述する。